Yuta Tamura

Official Website: https://gallery.yutatamura.art

Instagram: Instagram (@yutathetamuu)

バイオグラフィー

田村 勇太

1987年、兵庫県生まれ。神戸市を拠点に活動。

田村勇太は、平面、半立体、インスタレーションなど複数の表現媒体を横断しながら制作を行う現代美術家である。ピクセル表現を用いたキャラクター作品や抽象絵画、植物をモチーフとした絵画作品、植物や土、縄、布などの素材を用いた作品など、異なる表現を並行して展開している。田村勇太は、平面、半立体、インスタレーションなど複数の表現媒体を横断しながら制作を行う現代美術家である。ピクセル表現を用いたキャラクター作品や抽象絵画、植物をモチーフとした絵画作品、植物や土、縄、布などの素材を用いた作品など、異なる表現を並行して展開している。

田村の制作には、表現方法や素材が変化していく中でも一貫して、物質や存在との関係を見つめる姿勢がある。素材を単なる制作の手段として扱うのではなく、それぞれが持つ性質や時間の経過を受け入れながら、変化していくものとどのように関わることができるのかを探っている。

異なる媒体や素材を通して展開される作品は、固定された形態や完成された状態のみを提示するのではなく、素材の変化や鑑賞者、展示される場所との関係の中で、多様なあり方をひらいていく。

アーティスト ステートメント

私は、物質や生命、身体、記憶など、あらゆるものは互いに関係し合いながら世界のなかにあり、そのあり方は絶えず移り変わっていると考えている。存在はそれぞれの関係を結び変えながら、異なるあり方へと移り続けていく。存在は忘れられることがあっても、消えることはない。

私は作品そのものが土のように、さまざまなものを受け入れ、様々な関係の痕跡を蓄積しながら変化し続けるような存在であることを目指している。状態が変化することを作品の一部として組み込み、それによって作品は固定されたものではなく、関係性の中で存在し続ける過程そのものとして現れる。

私にとって変化は目的ではない。それは、あるものが新たな関係へと開かれ、別のあり方でこの世界に存在し続けるための条件である。

CV

個展・二人展

2026
『あの日の私が呼んでいる』| きらくえんギャラリー(兵庫)

2024
『Player 0』| きらくえんギャラリー(兵庫)
『YUTA TAMURA』| SOKA ART(台北)

2023
『「名前はまだない。」』| Goyo Gallery(東京)
『Hello, Real World.』二人展 | Gallery NOWHY(ソウル)

2022
『8 Bit Journey』| NEPTUNE GALLERY(台北)
『風景と心象の関係性について』| きらくえんギャラリー(兵庫)

2021
『HEYANIBOTANICA』| ギャラリールナ(兵庫)

グループ展

2026
『Art Parade』| 大丸京都店(京都)

2025
『Edition One: Materiality』| The Handbag Factory(ロンドン)
『DREAM HACKERS & NEO TOTEMS』| Joyman Gallery(バンコク)

2023
『Thinkspace x STRAAT: NDSM Group Show』| アムステルダム
『Cicada Call』| NOKE(台北)
『Hawaii Walls 2023』| ハワイ
『e to oto to』| ＋ART Gallery(東京)
『Existential』| Antler Gallery(ロサンゼルス)

2021
『Japan-Austria Art-exchange Exhibition』| art-P(ウィーン)

2019
『Japan-Austria Art-exchange Exhibition』| OAG(東京)
『Pink』| Voyagers Gallery Tokyo(東京)

アートフェア

2026
Hotel Art Fair | Joyman Galleryより出展(バンコク)

Kobe Art Marché｜Hakkendoより出展（神戸・神戸オリエンタルホテル）
Art@Ginza｜Hakkendoより出展（東京・ホテルモントレ銀座）

2025
余白のアートフェア｜福島

2024
MOORDN ART FAIR｜広州
Art Xiamen｜厦門
Thailand Mango Art Festival｜バンコク

2023
Thailand Mango Art Festival｜バンコク

2022
3331 Art Fair｜東京
Art Fair Asia Fukuoka｜福岡

文献掲載

2025
『Al–Tiba9 Magazine』Issue #16

受賞歴

2025
IAG AWARD 2025｜掛川市特別賞
『いい芽ふくらめ in 大阪 2025』｜優秀賞・ギャラリー賞3賞
『Namiki Gallery Open Call Exhibition』｜審査員特別賞

（個展・グループ展ともに一部を抜粋しております）

Artwork

Pixel



Title: Universal Century

Year: 2024 Size: 234 x 234 x 4cm

Material: mixed media on wooden panel



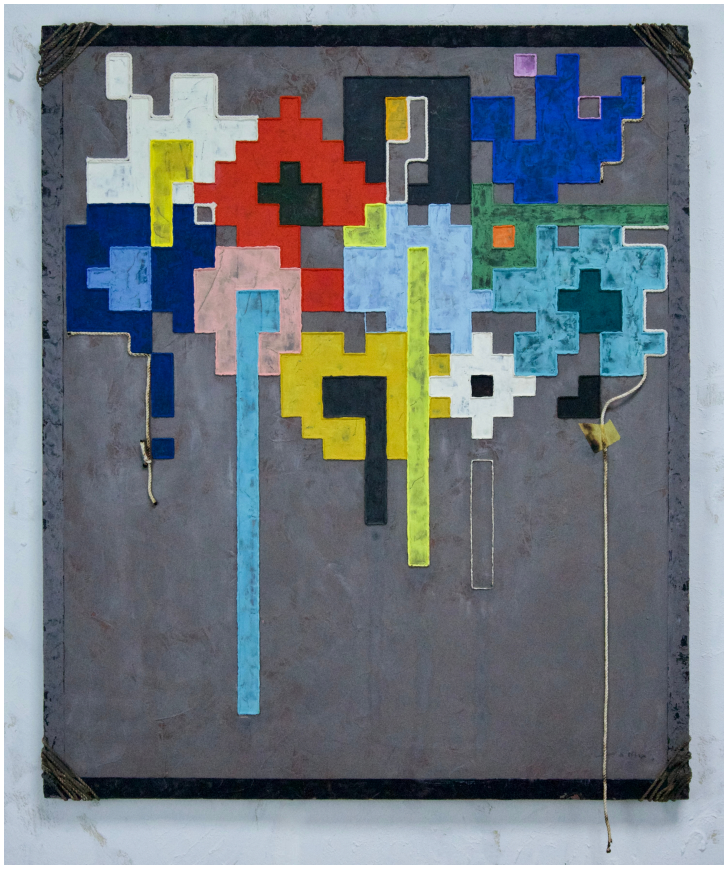
Title: Spun

Year: 2025 Size: roughly 60 x 55 x 15cm (including a cloth, thread, branch)
Material: mixed media on wooden panel



Installation view, **“I have, as yet, no name.”**

, Goyo Gallery, Tokyo, Japan, 2023



Title: Pangaea

Year: 2026 Size: 72.7 x 60.6 x 3cm
Material: Mixed media on wooden panel



Installation view, **8-Bit Journey**, Neptune Gallery, Taipei, Taiwan, 2022

Current Practice

私の制作は、変化と時間の関係への長年の関心から発展してきた。

初期のピクセルを用いた作品では、ピクセルという概念そのものに時間を与えることに関心を持っていた。デジタルイメージは、しばしば固定された不変のものとして理解される。しかし私は、そのような永続性のなかに物質的な変化を導入することを試みた。物理的な作品が風化し、経年変化し、変わり続けることを通して、永続性と結びつけられるイメージであっても、時間の流れのなかに存在しうる可能性を探っていた。

次第に、私の関心はイメージそのものだけでなく、作品がどのように存在し続けるのかという問いへと広がっていった。変化を表現するのではなく、作品自体が実際に変化し、その変化を通して新たな関係を生み出していくことに関心を持つようになった。

こうした関心から、土、乾燥した植物、縄、布、木など、時間とともに変化し、周囲の環境に応答する素材を用いた作品も制作している。これらの素材は単一の状態に留まらず、人や場所、環境との関係のなかで風化し、朽ち、形を変えていく。私は作品そのものが土のように、さまざまなものを受け入れ、そこで生じた関係の痕跡を蓄積しながら変化し続けることを目指している。

素材や形態は変化しても、根底にある関心は変わっていない。私が見つめているのは、ものが他者や場所との関係のなかで、そのあり方を絶えず変えていくことだ。作品もまた、それ自体で完結するものではなく、見る人や置かれる環境との関係によって、その都度異なる存在として立ち現れる。

私は作品を、完成された意味や形を提示するものではなく、さまざまな関係が生まれ、重なり、変化していくための場所として捉えている。そこで生じるものはあらかじめ決められたものではなく、関わる人や時間、環境によって異なる。作品をつくることは、私にとって、何かを示すこと以上に、関係が生まれ続ける場所をつくることである。

以下に示す作品群は、この継続する探究の一部である。



Title: My Euangelina

Year: 2026 Size: 93 x 74 x 4cm

Material: Mixed media on wooden panel



Title: 海色の草原

Year: 2026　　Size: 23 x 28 x 3cm
Material: Mixed media on wooden panel



Title: 帰り道

Year: 2026　　Size: 18 x 18 x 3cm
Material: Mixed media on wooden panel



Title: 眠りの庭

Year: 2026　　Size: 34 x 34 x 3cm
Material: Mixed media on wooden panel